

平成29年度 第2回 学校評議員会・

第3回 コミュニティー・スクール推進委員会 議事録より

日時 平成30年2月2日(金) 午後2時30分～午後4時08分

場所 会議室

出席者

コミュニティー・スクール推進委員

[敬称略]

学校評議員	鈴木 弘
学校評議員	古谷 武美
学校評議員	今野 義和
学校評議員	三浦 尚
学校評議員	伊藤 勇紀雄
P T A会長	鈴木 久
P T A副会長	窪田 潤子
本校職員 (総務)	山崎 昇
本校職員 (進路)	今野 巖
本校職員 (教務)	若狭 祐樹
C Sディレクター	草薨 康尚

校長	佐藤 隆志
教頭	渡部 均 (司会進行)
事務長	金野 東
工業科総務	佐々木 和美 (機械科)
電気科主任	本谷 直
生徒指導	小野 直人
特別活動	佐々木 学
総務	吉方 隆悦(記録)

欠席 同窓会長 照井 巖

【学校評価について】

◎保護者アンケートから (教頭：渡部均)・・・資料 保護者アンケート集計結果冊子

- ・ 12月前にアンケートをしている。回収率は、インフルエンザで学年閉鎖、学級閉鎖があった影響で若干下がった。
- ・ 学校からの情報提供に関して
 - 3. 教育方針：①②合わせて80%である程度伝わっている。
 - 4. 学校生活の様子：昨年より若干向上している。
 - 5. 保護者の要望の取り入れ：やや向上だが、わからないも多く、今後検討が必要である。
- ・ 行事に関して
 - 6. ボランティア、7. 学校行事、8. 部活動等：高い関心を持ってきている。
- ・ 資格取得に関して
 - 9. 資格取得：高い回答を得ているが、経済的な面もあり保護者の理解が必要となる。
- ・ 生徒指導に関して
 - 12. いじめ未然防止、不登校：①②で過半数だが、わからないも多く、検討が必要である。
 - 13. 整容、挨拶等：野球部の挨拶が新聞等で取り上げられるなどよくできている。
- ・ ホームページに関して
 - 16. HPでの情報提供：毎年、課題だと思っている。見たことがないが47%と多い。
- ・ 家庭教育に関して
 - 家庭学習がもう少しできるよう、学校側からも保護者に働きかけしていければと思う。
- ・ 現在の取組でもっと力を入れてほしいことに関して
 - 1. 魅力ある・わかる授業による学力の向上、3. 主体的に自己の生き方を考えることができる進路指導、5. ものづくりの技術・技能や資格取得のための指導 の3項目が例年ポイントとなっている。

◎各分掌から

○教務部から(教務：若狭祐樹)・・・資料P 1～2 参照

- ・在籍者数は、4月4日17名でスタート、10月16日付け1人転学し、現在は416名の在籍数となっている。退学者は、いない。転入者もない。現在休学者が1名いる。
- ・欠席、欠課の多い生徒に関しては、1年生の1名は、保健部と1年部で対応している。2年生の1名は、進路を考えながら現在休学中である。3年生の2名は、定期考査も終え、卒業認定に関わる程の時数ではないので大丈夫と思われる。
- ・教育課程は、ここ数年変わらない形で行われている。3年生の”英語表現I”は、進学希望者用に準備している科目だが、今年度は、履修者がいないので開講していない。
- ・教育課程に関しては、指導要領の改訂が29年度末出て、30年度周知徹底、34年度使用開始となっているが、学校側も改訂に向けたものが出た段階で検討を始めないといけない。

○生徒指導部から(生徒指導：小野直人)・・・資料P 3参照

- ・校門指導、整容検査、校外巡視、5S運動と実施している。5S運動は、27年から実施している。ある程度の呼び掛けができ、今後は状況をちゃんと確認できるシステムを作りたい。
- ・保護者アンケートで整容検査についていろいろなことが書かれていた。月1回実施しているが、回数が多いとかがあった。かといって、手を抜くこともできないので継続してやっていきたい。最近、ブロックの髪型をする生徒も出てきており、指導をしていきたい。
- ・携帯電話は、朝回収し、帰りに返す方法を取っているが、現実には、朝に提出しない生徒もいるので回収の仕方とも考えていかないといけない。帰りに返した後も部活動前にゲーム等でも使用してしまう場面が見られる。この辺の指導方法も次年度に向け、考えていかないといけない。
- ・SNSに関しては、ツイッター等かなりの生徒がやっている。大曲工業高校で検索すると在校生と卒業生を含めて300件ほどある。学校名を出さずにやっている生徒も含めると実際の数は、掴めない。ただ、内容に問題がなければいいが、発言が多方面に影響を及ぼすこともあるので、指導方法を考えていかないといけない。
- ・自転車事故が1件、自転車盗難が数件あったが、発見されて事なきを得た。現金盗難については、空き教室の鞆の中から取られたのが数件あった。貴重品は、身から離さないようにと話をしている。
- ・いじめについては、すぐに報告するように指導があり、県に2件報告している。いじめ防止対策委員会を開催し、現状の把握、対応にあたった。対象生徒には、いろいろ指導をしていき、現在は落ち着いている。
- ・生徒の動静については、進路変更(転学)が1名いた。
- ・処分関係では、校長訓告が1名、有期・無期の停学が7名いた。校長訓告の生徒が停学にもなり、実質7名が処分を受けた。

○特別活動部から(特別活動：佐々木学)・・・資料P 4、学校評価資料P 4参照

- ・今年度1年間の東北大会以上を載せている。個人競技の部がいい結果をあげた。運動部は、12あるが、ソフトテニス部、卓球部、陸上部、バドミントン部、水泳部が、東北大会に出場している。
- ・文化部は、同好会を含め7つある。その内5つが東北大会に出場といい成績を上げている。吹奏楽部、無線部、ものづくり同好会、囲碁将棋同好会、土木研究同好会が挙げられる。
(文字欠けの訂正 ―― 10月の吹奏楽部ダイナミックパッション賞)
- ・今後の大きなところとしては、3月24日からの全国選抜卓球大会(福井市で開催)に本校からは、30年ぶりに県代表として2CA鈴木隆星君が出場するので期待を膨らませている。
- ・学校評価資料の分掌の来年度の改善点として、消費税増税や地域の競技人口等を踏まえ、本校としての適正な部活動の数を考えていかなければいけないという意見が出ている。
- ・”躍進の日”の趣旨、目標に基づいて、教職員も含めて部員の負担の軽減等も考えての話し合いも来年度に向けてしていきたいと考えている。

○進路指導部から（進路指導：今野巖）・・・資料P5参照

- ・就職は、ほとんど決まっていますが、残り、県内民間1名、公務員県外1名で現在出願中である。今年度中に決まってくれればと思う。
- ・進学は、残り、大学3名、専門学校1名となっている。
- ・就職のほうは、求人票受付数の一覧を載せてあるが、ここ3～4年県外企業の受付数が増えていて、今年度は、昨年より400程増えている。下は、大曲・横手ハローワークの高校生に対する求人数で、こちらも増えている。
- ・現3年生は、就職希望が多い学年で85%が就職希望、進学が15%となっている。
- ・特徴としては、1社で複数人の採用が挙げられる。1社で2～3名とか、多い企業は6名の採用もあった。
- ・公務員は、合格者9名で昨年より2名増えている。補習等の効果が出ていると思う。
- ・進学については、朝自習、補習等実施しているが、一般試験に対応するには至っておらず、ほとんどがAOや推薦で合格をしている状況である。在学中に学力を付けていくということがこれからの課題になる。

○工業教育概要について（工業科総務：佐々木和美）・・・資料P6～8参照

1 取り組み

《1》各種検定試験等結果

- ・資料の訂正 ―― 施工管理技術者 建築2級 ” 8 (+1)” → ” 9 (+2)”
- ・ジュニアマイスターは、資格検定等を点数化し、30点以上でシルバー、45点以上でゴールドに認定される制度である。
- ・昨年度ゴールド9名、シルバー23名と一昨年度より大幅に増加している。今年度は、すべての結果が出揃っていないが、最低でもゴールド6名、シルバー28名と昨年を超える見込みである。資格検定に関して意欲を増し、結果も出ているという状況になっている。
- ・国家資格の取得状況で、今年度は、電気工事士第2種の合格者55名と前年より21名増と凄い結果となっている。また、3次元CAD利用技術者1級に1名合格者が出た。これは、高校生の受検を想定していない試験のようで、その中で合格し、更に最高点数での合格ということで特別表彰にも該当になった。
- ・技能検定の機械検査3級は、昨年13名の合格だったが、今年は40名以上受検しほぼ全員合格の見込みで3倍以上の結果になると思う。
- ・前年度から資格取得の取組が、非常に高まってきている状況になっている。

《2》各種競技大会・研究大会結果

- ・7月30日 全国高校ARDF競技大会（発信器を探す競技）5位
- ・8月26日 コンクリートカヌー大会 総合優勝（2連覇 3回目の総合優勝）
- ・8月28日 高校ロボット競技大会秋田県予選で優勝し、10月21～22日の全国大会（秋田市開催）に県代表で出場
- ・11月5日 全日本ARDF競技大会 2位で世界大会の出場権を獲得
- ・11月19日 宇宙エレベーター競技の東北大会で優勝
- ・今年度もめざましい活躍があった。

2 インターンシップ

- ・平成29年7月26日(水)～28日(水) 3日間 2年生（138名）
- ・約50の事業所に受け入れてもらい、生徒達はいい経験を積んだ。

3 その他工業教育の活動

《1》ものづくり教育の充実

- ・外部の方々と連携し、協力を得ながら実践している。
- ・高度熟練技能者（社会人講師）による指導は、機械科で機械加工（旋盤）、土木コースで測量を実施した。
- ・企業との連携は、様々な地元企業の協力を得て実施した。
- ・ものづくりマイスターの活用
- ・大学教員の活用

《2》工業技術による地域貢献活動

- ・親子ものづくり教室（平成17年度から夏休みに実施）
- ・WRO講習会
- ・大曲支援学校との交流（平成20年度から実施）
- ・東大曲小学校との連携（平成25年度から実施）
- ・仙北中学校との中高連携授業（平成19年度から実施）更に昨年度から本校職員が中学校に出向き『技術』の出前授業も実施している。今年度は電気科職員が出前授業を実施した。
- ・地元社会人対象の3次元CADの体験セミナー開催（平成28年度から実施）

○質疑応答・提言

学校評議員：鈴木弘氏

- ・保護者アンケートから取組が十分行われていると再確認した。

Q 学校評価資料について質問。警防部のところで、第1体育館が避難所に再指定されたところ。今年は洪水が2回も起き避難所はとても大事だと思う。指定は、どこでしたのか。また、校内はもちろん地域の周知について伺いたい。

A（金野東事務長）指定については、大仙市と協定を結んだ。平成27年度に第1体育館を避難所とすることで協定を結んだ。グラウンドは、避難場所に指定されている。地域への周知は、大仙市が指定された地区に対し広報等でしていると思う。何かあったときには、大仙市から連絡があり、学校側は、それを受け開放する立場になる。

Q 平和中学校が、地域の介護施設と連携し避難訓練を実施したようだが、こういったことはやっていないか。

A（教頭）地域との防災訓練については、今後のコミュニティー・スクール推進委員会で話が出てくるかもしれないが、今のところは、実施していない。

学校評議員：古谷武美氏

Q 保護者アンケートで、PTAにほとんど参加しないという回答が、多いようだ。28年度より前からこのくらいだったのか。また、参加してもらう工夫はしているのかを伺いたい。

A（教頭）ここ数年ほぼ同じくらいで推移している。来てもらうため学年毎に考えてやっているがほぼ同じになっている。

Q PTAは、平日か。

A（教頭）総会は、以前休日にやったこともあったが、今年は平日。修学旅行前に2年の学年PTA実施等、各学年でも実施している。

A（山崎）総会は、毎年20%くらいの参加で、大曲高も大曲農業高も同じくらいようだ。角館高は、歌手を呼んだりしたこともあったが、余り変わらなかった。前のPTA会長の提案で実習の参観をしたらどうかとやってみたこともあった。年間の行事予定は、各家庭に配付しており、各月の行事予定も担任等を通して家庭に行っていると思う。来ないように言っている生徒も多いと思う。小中高と進むにつれ参加が減っている傾向がある。

（鈴木PTA会長）私も実習の参観をさせてもらったが、その時もだいぶ少なかった。やっている中身は、専門的でいい授業だと思うので、参観していいと思った人の意見を周知させてはどうかと思う。

学校評議員：今野義和氏

Q 進路のことだが、秋田県も人口減少の課題があり、地域の事業所も人材不足が深刻になって来るのではないかと考えている。就職希望の半数以上がこの地域から県外に行ってしまうようで、条件面等あると思うが、保護者の方が、県外に行くことを望んでいるのか。面談等話し合いもしていると思うが、実態を伺いたい。

A（今野巖）本校はここ数年県外55%くらいである。県全体では、県内68%くらいなので、本校は県外へ出る率が高い。地域のハローワークでも2年生の段階から企業説明会等を開き地元企業を知る機会を設けている。1年生には、ふるさと企業紹介をやっている。しかし、工業高校の専門性を生かすという観点から県外にも目を向けざるを得ないという面もある。

る。学校としても県内に残す指導というのは、難しいとも思っている。

- ・求人票の枠の中で判断するとそういうこともあると思うが、家族の希望も有りかなり心配であると思う。数年勤めて戻ってくる人もいると思う。労力が掛かるが就職後に継続しているかを追跡調査も必要かと思う。
- ・保護者アンケートについては、形式はここ数年変わらないと思うが、どこかの項目が目に見えて変わるような取組も必要ではないか。例えば、HPを見る装置がないが1%なのに見る人が半数しかいないので、1回でも見るきっかけを作れば、時々見るの回答が増える。

学校評議員：三浦尚氏

Q 保護者アンケートは、大曲工業高の独自の取組なのか。他校はどうか。

A (山崎) 他校でも実施している。

Q 他校の結果は、見せてもらっているか。参考にできるのか。

A (山崎) 見てはいない。

Q 部活動については、生徒数が少ないが活躍していると見ているが、大会の遠征費用に学校補助の規約はあるのか。

A (佐々木学) 派遣費、旅費は、特振会計で予算化されていて、校内規定に沿って計算し、支給されている。予算に関しては、在校生から集めたお金の中から支出されている。

Q 活躍すると費用は多く掛かる訳なので、予算は潤沢なのか。野球部で多く使った分を戻してもらったこともあったり、実際厳しくないのか。

A (佐々木学) 年によって変わる。全県総体が、県南開催と県北開催で差が出るし、東北、全国大会に出場する競技が多い年は、費用捻出が、難しくなり事務長、校長が頭を悩ませるところだと思う。消費税増税で更に厳しくなるが、東北、全国大会等に出場する生徒には、負担を掛けたくないと考えている。どう解決するかの話し合いに入っていければと思っている。

学校評議員：伊藤勇紀雄氏

- ・生徒の発表を見させてもらい、花火の取組など我が街、花火の街を愛する勉強をするのは最高だと思う。中学校では、市の議会に働きかけたりビジョンを提案したりという機会があるが、高校生もそういう機会を設けてはという思いがある。街並みの整備は、ほぼ100%できたが、店づくり、街づくりはまだまだ伴っておらず、高校生からも研究成果的なことを提案していければと思う。

Q 生徒指導について、平たくいえば泥棒が有ったということでモデル校指定されている中で、防止の手立てとかはどうか。体育時など見学者に教室の番をさせる等手立てがあるのでと思う。兄弟殺し、親殺し等の報道でそういう行動を起こす神経はどういうものなのかと思う。ものづくりの教育をする中で、人間教育、心の教育がしっかりしないといけない。昔と比べどこがどう違ってきているのか。

A (校長) 昔は、表面化し何がだめなのか見えていたが、今は、潜んでしまって見えないところが多い。それで職員も指導が難しくなっている。我々も見えない部分をなんとか時間を割いてツイッター等を見るとかし、いかに指導していくのか対応しないといけない。

P T A会長：鈴木久氏

- ・保護者アンケートの最後の力を入れて欲しい取組で ③進路指導 ⑤資格取得が、高い数値になっている。これについては、同感である。学校評価資料では、学年部、進路指導部、各科とも1年時後半から資格指導の添削、問題集の精選であったり、進路面談と努力をされていることが窺える。自己評価を見ると中には厳しい自己評価をしているように感じる。全員合格等の数値目標があれば厳しい評価になるのかと思うが、控えめな自己評価を感じる。校長先生には、そのまま受け取らず頑張っていると評価して頂きたい。
- ・情報提供として、地元の近くの企業に入ってみたところ、実際には家にいられず派遣のような形で各県を転勤して歩かされている状況で親が心配している例がある。親に辞めさせたら

と言っても本人がその気持ちにならないと、非常に若い人材を食い物にするというかそういった事案がある。入った後に派遣のような形が有るのか、学校側が精査するのは難しいと思うが、親が心配している事案もあり情報提供させて頂いた。

P T A 副会長：窪田潤子氏

- ・私では内容についていけない部分もあったが、子供達は、頑張っているんだなと感じている。
- ・P T A の活動に参加が少ないとあったが、見たいけども見られない人もいる。今回私は、この立場で呼んで頂き見ることができたが、声が掛かれば見たいという方もいると思う。
- ・母親委員という立場でもいいと思ったことをどう発信していけばいいのかと思う。子供達の活動を見たい人もいるので発信してくれればと思う。